



JICAの防災協力

災害に負けない社会へ



独立行政法人 国際協力機構
地球環境部



2010年3月



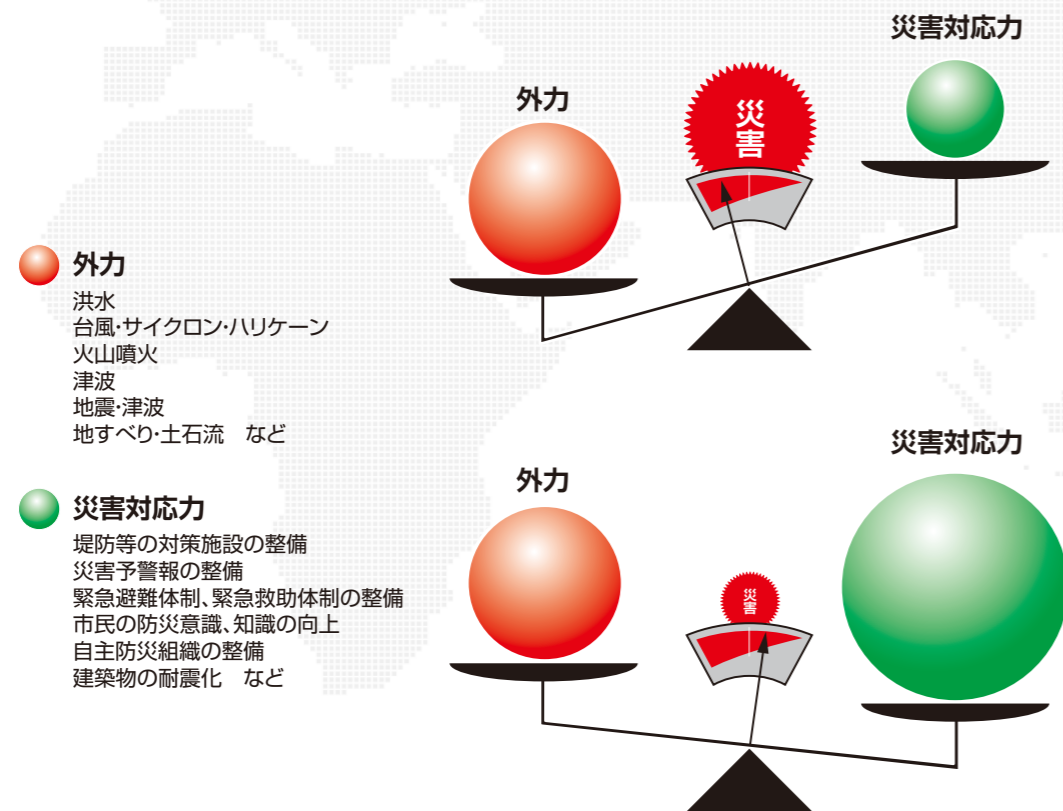
防災分野におけるJICAの協力方針

近年、地球規模の気候変動によると考えられる異常な気象現象の多発や、災害の危険性を考えない無秩序な開発によって、世界的に自然災害の件数、被害ともに増加する傾向が見られます。そして、その自然災害による被害の大半は、開発途上国に集中しています。自然災害による被害は、開発途上国に暮らす人々の命を奪い、健康を害することはもちろん、長い年月をかけて蓄積してきた個人の財産や社会のインフラを一瞬にして破壊してしまいます。そのような災害が頻発する状況にあっては、開発途上国が持続的に発展し、人々が貧困から脱却していくことは困難です。

開発途上国の社会や経済が自立的に発展していけるよう様々な国際協力をおこなっているJICAは、災害を、人々の安全を脅かす存在であると同時に、持続可能な開発を阻害する要因と捉え、開発途上国による災害に強いコミュニティや社会づくりを支援する協力を力を入れています。

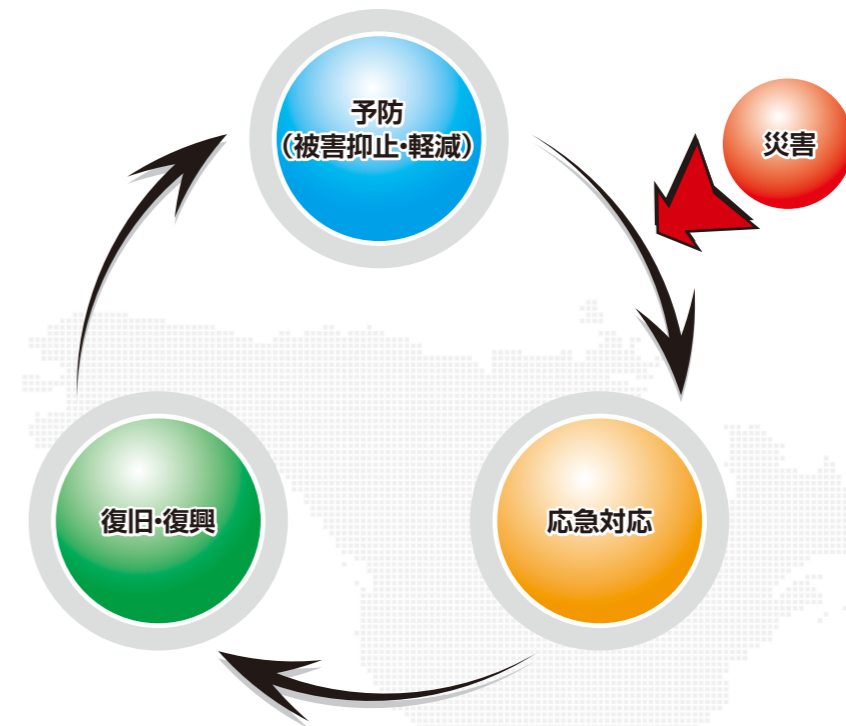
なぜ災害がおこるのか？

自然災害をもたらすのは自然現象ですが、自然現象そのものは災害ではありません。自然現象である**外力 (Hazard)**が人間社会に作用し、その力が社会の持つ**災害対応力 (Coping Capacity)**を上回ることによって災害が発生します。被害の大きさは外力と災害対応力の力関係によって決まります。



災害対応力を高める

自然現象の発生そのものを抑止することは難しいので、災害のリスクを抑制し被害を軽減するためには、社会の災害対応力を高めることが有効です。JICAでは、**災害マネジメントサイクル**の考え方に基づいて、総合的な視点から災害対応力を高めるための支援をおこなっています。



災害対応力を高め、災害による被害を軽減するためには、災害の予防(被害抑止・軽減)、災害発生直後の応急対応、そして復旧・復興のそれぞれの段階において適切に対応できるようにすることが必要です。そこで、JICAは災害マネジメントサイクルのそれぞれの段階において次のような**開発戦略目標**を掲げ、これらの目標達成に向けた協力に取り組んでいます。

- 開発戦略目標1(予防段階)** :災害に強いコミュニティ・社会づくり
- 開発戦略目標2(応急対応段階)** :迅速かつ効果的に被災者に届く応急対応【命を守る】
- 開発戦略目標3(復旧・復興段階)** :的確な復旧・復興への移行と実施

これらの中でも、予防(被害抑止・軽減)段階で適切な対策をすることにより被害を未然に抑止、或いは軽減することが、最も重要であるという認識から、開発戦略目標1の**災害に強いコミュニティ・社会づくり**を最重点目標に位置づけています。